

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	楽器レッスン1	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実技		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	二村	実務経験の有無・職種	有・音楽教室ピアノ講師		
<b>学習目的</b>					
オリジナル楽曲制作を目的として、基礎的なピアノの演奏を学ぶ。正しいフォーム・メジャースケールを片手で弾くことができるよう学んでいく。3つ以上の和音を弾けることで楽曲制作の基礎能力を構築する。スケールごとに運指が異なる事を理解し、正しい運指で弾くことができるよう学ぶ。ポップスの譜面ではコードネーム表記の演奏が主体となっており、ピアノ譜面（音符の玉）が苦手な学生が多くみられるため、大譜表を見ながら右手と左手で弾けるよう学ぶ。					
<b>到達目標</b>					
本科目はグレード対応科目となっており、1年次前期はグレード1～5に準拠して授業が進行する。正しいフォームでCメジャースケールが弾くことからスタートしていく。到達目標は次のとおりとする。「正しいフォームで簡単な和音を3つ以上片手で弾けること、両手を使ったコードに対応するためのハノンの運指を体得すること、譜読みに関してはピアノ譜面（音符の玉）が読めるよう大譜表を見ながら右手と左手の「音符の玉」をテンポ60の4分音符で弾けること。」					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（手・指の大きさ）等に留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。和音・スケールを弾く際、正しいフォームで弾けるよう理解して受講する。また各スケールにより運指が変わる対応で、調号3つまでの各メジャースケールの運指をピアノ譜で読譜をしながら理解し、片手で弾くことができる。玉譜を理解して、両手を使ったコードに対応するためにハノンの運指を体得し後期まで基礎を学ぶ。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度には厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技術の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	実技	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	授業内発表	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
<b>授業計画（1回～15回）</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	鍵盤とピアノ譜の理解1（1）	グレード1対応。正しいフォームでCメジャースケールを弾くことができる。			
2回	鍵盤とピアノ譜の理解1（2）	グレード1対応。正しいフォームでCメジャースケールを弾くことができる。			
3回	鍵盤とピアノ譜の理解2（1）	グレード2対応。簡単な和音を3つ以上片手で弾くことができる。			
4回	鍵盤とピアノ譜の理解2（2）	グレード2対応。簡単な和音を3つ以上片手で弾くことができる。			
5回	鍵盤とピアノ譜の理解2（3）	グレード2対応。簡単な和音を3つ以上片手で弾くことができる。			
6回	スケールと運指の理解（1）	グレード3対応。調号3つまでの長音階を片手で弾ける。			
7回	スケールと運指の理解（2）	グレード3対応。調号3つまでの長音階を片手で弾ける。			
8回	スケールと運指の理解（3）	グレード3対応。調号3つまでの長音階を片手で弾ける。			
9回	両手を使ったコードワーク（1）	グレード4対応。両手を使ったコードに対応するためのハノンの運指を体得する。			
10回	両手を使ったコードワーク（2）	グレード4対応。両手を使ったコードに対応するためのハノンの運指を体得する。			
11回	両手を使ったコードワーク（3）	グレード4対応。両手を使ったコードに対応するためのハノンの運指を体得する。			
12回	ピアノ譜の理解（1）	グレード5対応。大譜表を見ながら右手と左手の「音符の玉」をテンポ60の4分音符で弾ける。			
13回	ピアノ譜の理解（2）	グレード5対応。大譜表を見ながら右手と左手の「音符の玉」をテンポ60の4分音符で弾ける。			
14回	ピアノ譜の理解（3）	グレード5対応。大譜表を見ながら右手と左手の「音符の玉」をテンポ60の4分音符で弾ける。			
15回	まとめ	全体のまとめ			

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	楽器レッスン1
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期 前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位	授業形態	実習	
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	杉本	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
<b>学習目的</b>				
楽曲を制作するには、基本的なスケールやコード感を理解している必要がある。そして合理的でスムーズな音楽制作に鍵盤は必要不可欠なツールとなっている。この科目では基礎的なピアノの奏法を学ぶ事によって、楽曲制作に必要なスケールやコード感を鍵盤を通して体得し、スムーズな音楽制作に役立てるようにする。さらには、音楽家としての表現の幅を広げるために、弾き語りでのピアノ演奏ができることを目的とする。				
<b>到達目標</b>				
本科目はグレード対応科目となっており、1年次前期はグレード1～5に準拠して授業が進行する。正しいフォームでCメジャースケールが弾くことからスタートしていく。到達目標は次のとおりとする。「正しいフォームで簡単な和音を3つ以上片手で弾けること、両手を使ったコードに対応するためのハノンの運指を体得すること、譜読みに関してはピアノ譜面（音符の玉）が読めるよう大譜表を見ながら右手と左手の「音符の玉」をテンポ60の4分音符で弾けること。」				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	基本的にはグループレッスン形式で進行するが、学生の個々の習得具合によって個人レッスンも取り入れる。ピアノ演奏を習得する事によって、鍵盤で弾いたコードに対してどのようなメロディーが合うのか、または、メロディーに対してどのようなコードが合うのかを理解し、音楽制作に発展させる。さらには音楽制作だけでなく、自身が表現者となり、ピアノ弾き語りができるようになる事を目指す。			
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。一度弾けたからクリアではなく、弾けるようになったら何度でも練習し演奏技能の向上に努める事。譜面を読んでピアノが弾ける事を目的とするので他の楽器での演奏は認められない。ヘッドホンは必ず持参する事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験	20%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	基本スケール(1)	グレード1対応。正しいフォームでCメジャースケールが弾ける。		
2回	基本スケール(2)	グレード1対応。正しいフォームでCメジャースケールが弾ける。		
3回	基本コード(1)	グレード2対応。簡単な和音を3つ以上理解し片手で弾ける。		
4回	基本コード(2)	グレード2対応。簡単な和音を3つ以上理解し片手で弾ける。		
5回	基本コード(3)	グレード2対応。簡単な和音を3つ以上理解し片手で弾ける。		
6回	メジャースケール(1)	グレード3対応。調号3つまでの長音階を理解し片手で弾ける。		
7回	メジャースケール(2)	グレード3対応。調号3つまでの長音階を理解し片手で弾ける。		
8回	メジャースケール(3)	グレード3対応。調号3つまでの長音階を理解し片手で弾ける。		
9回	ハノンの運指(1)	グレード4対応。両手を使ったコードに対応するためのハノンの運指を体得できる。		
10回	ハノンの運指(2)	グレード4対応。両手を使ったコードに対応するためのハノンの運指を体得できる。		
11回	ハノンの運指(3)	グレード4対応。両手を使ったコードに対応するためのハノンの運指を体得できる。		
12回	両手でコード弾き(1)	グレード5対応。大譜表を見ながら右手と左手の「音符の玉」をテンポ60の4分音符で弾ける。		
13回	両手でコード弾き(2)	グレード5対応。大譜表を見ながら右手と左手の「音符の玉」をテンポ60の4分音符で弾ける。		
14回	両手でコード弾き(3)	グレード5対応。大譜表を見ながら右手と左手の「音符の玉」をテンポ60の4分音符で弾ける。		
15回	まとめ	全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	楽器レッスン1	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	BAN	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン		
<b>学習目的</b>					
各楽器のプレイヤーが音楽活動の幅を広げるため、大譜表(ピアノ譜)やコード譜を読みピアノを弾くことができるようになることを目的としている。簡単なバックイングや弾き語りで演奏できるようにする。ピアノを弾けるようになることによって読譜や音符リズム、コードの構成、ルートやベース音のことが理解できるようになり、各自の専攻の楽器の演奏の上達にもつなげる。ピアノを演奏するためには思うように指が動くことが必要となってくるので、左右の指の1本1本を自由に動かすことができるようにする。					
<b>到達目標</b>					
本科目はグレード対応科目となっており、1年次前期はグレード1～5に準拠して授業が進行する。指を独立させて動かせるようにする。正しいフォームでスケールが弾けるようになること。譜面を読みメロディーが弾けること。左手はルート、右手は基本形のコードが押さえられるようになること。到達目標は大譜表を読み、任意のテンポにてリズムをキープしながら左右で旋律とコードが弾けるようになること。ピアノを弾くことによってコードネームやその構成、メジャースケールや調性、調号、記号を理解できること。					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	まず指を自由に動かすためのエクササイズから始める。慣れない指を動かすすぎて痛めてしまわないように留意しながらウォーミングアップとしてゆっくりしたテンポから徐々に上げていく。そして高音記号と低音記号の「音符の玉」を読みながらピアノでメロディーを弾く練習を行う。左右別々に練習した後、両手でタイミングがずれないように気をつけながら練習する。その後コードネームを覚えながらコードを弾く練習に移る。指を休めるため授業中に小休止の時間をとる。				
注意点	各自のピアノの音に集中するためヘッドホンを使用する。楽器への対応のためにヘッドフォンジャックから標準ジャックへの変換プラグを各自用意すること。授業内に配った譜面やプリントは復習する事もあるので必ずファイルして毎回持ってくること。授業中の私語やスマホの利用、受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく積極的に参加すること。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法		割合	備考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために、いくつかのグレード履修後に実施する。		
	提出物	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する			
<b>授業計画(1回～15回)</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	正しいフォームで鍵盤を弾く。指を動かす	グレード1対応。指を1本1本独立して動かせるようなエクササイズを行い、正しく手に無理のない形で鍵盤を弾くことができる。			
2回	音符を読みながら鍵盤を弾く(1)	グレード1対応。音符と鍵盤の位置が一致して理解できる。。片手でCメジャースケールが弾けるようになる。			
3回	音符を読みながら鍵盤を弾く(2)	グレード1対応。音符を読みながら両手同時にてCメジャースケールが弾けるようになる。			
4回	コードを弾く練習(1)	グレード2に対応。片手でメジャートライアドを弾くことができる。			
5回	コードを弾く練習(2)	グレード2に対応。片手でマイナートライアドを弾くことができる。			
6回	コードを弾く練習(3)	グレード2に対応。片手でメジャートライアド、マイナートライアド両方が出てくるコード進行を弾くことができる。			
7回	調号が付いたメジャースケールの練習(1)	グレード3に対応。#系メジャースケール。Gメジャー、Dメジャー、Aメジャーキーが理解でき、片手で弾ける。			
8回	調号が付いたメジャースケールの練習(2)	グレード3に対応。b系メジャースケール。Fメジャー、Bbメジャー、Ebメジャーキーが理解でき、片手で弾ける。			
9回	グレード1～3 小テスト	正しいフォームで3種類以上の任意のメジャースケールを片手で弾くことができる。講師指定のメジャー、マイナートライアドを片手で弾くことができる。			
10回	両手を使ったコード弾き(1)	グレード4対応。左手コード、右手がコードのアルペジオで弾けるようになる。			
11回	両手を使ったコード弾き(2)	グレード4対応。左手ルート右手コードで、コード進行が弾けるようになる。			
12回	グレード4 小テスト	コード構成音とネームを理解して、簡単なコード進行が両手で弾けるようになる。			
13回	大譜表の音符を読んで弾く(1)	グレード5対応。ト音記号、ヘ音記号を読むことができる。両手それぞれ違う旋律を弾くことができる。			
14回	大譜表の音符を読んで弾く(2)	グレード5対応。大譜表をみて弾くことができる。クリックに合わせて弾くことができる。			
15回	まとめ	全体のまとめ			